

復興庁男女共同参画班は、令和2年9月～11月の3か月間、岩手県及び岩手県男女共同参画センター主催、「2020年度いわて男女共同参画サポーター養成講座」の一環として、動画配信によるオンライ講座「男女共同参画の視点を活かした防災・復興」を開催しました。岩手県内の各地から108名が参加（視聴）されました。

■ ビデオ講座概要

冒頭、男女共同参画班の役割や活動について紹介した後、株式会社アバンティ代表取締役会長 渡邊智恵子氏を講師にお迎えし、下記の2つのテーマで講演をしていただきました。

○ 女だからできたこと

○ 東北グランマの仕事づくり

■ 渡邊智恵子氏プロフィール



株式会社アバンティ代表取締役会長。北海道斜里郡生まれ。1985年株式会社アバンティを設立。日本でのオーガニックコットンの製品製造のパイオニア。企業活動以外に、オーガニックコットンの啓蒙普及と認証機関として、NPO 日本オーガニックコットン協会（JOCA）を設立し、現在は副理事長。グローバルスタンダード（GOTS）の基準作りにも関わる。

これまで活動、実績が評価され、2005年国際オーガニック繊維品会議でオーガニックコットン繊維賞を受賞。2009年毎日ファッション大賞受賞、2010年日経ビジネスウィメン、リーダー部門受賞、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」に社会起業家として取り上げられる。その後、2011年一般社団法人小諸エコビレッジ設立、代表理事就任。2014年一般社団法人わくわくのびえこども塾を設立、代表理事就任。2016年一般財団法人森から海へ設立、代表理事就任。2017年一般財団法人22世紀に残すものの発起人として活動を始める等各分野でも活動している。

■ 講座概要「女だからできたこと」

現在、会長を務める㈱アバンティは、オーガニックコットンの輸入・製造・企画・販売を手掛けている。この経営に至った原点には、渡邊氏の生い立ちに関わった、朝から晩まで働く母の姿、高校教師や義父、初めて就職した企業の経営者の教え（これからの女性の生き方・働き方）が大きく影響している。30年前に日本にオーガニックコットンを輸入したアバンティ社は、日本でのオーガニックコットンのパイオニアと言われている。日本の繊維業界でフォーカスされ、オリジナルブランドを立ち上げ、これからという1995年に、阪神・淡路大震災での社会状況が一変。さらには初めての出産・子育てでの苦労など、人生で一番大変な時期であり、ターニングポイントでもあったと当時を振り返る。パイオニアとして、母親としてのプライドがその後オーガニックコットンを通じたものづくりへのプライドにつながった。後に東日本大震災復興への支援として立ち上げたソーシャル事業部での取組も深くつながっている。アバンティ社は『未来の子どもたちに「きれいな地球」を残す』ことを目標に、子どもたちや環境保全のために持続可能な社会を目指した社会活動にも取り組んでいる。

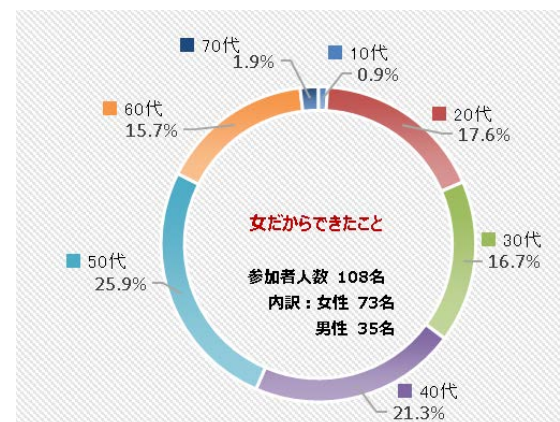
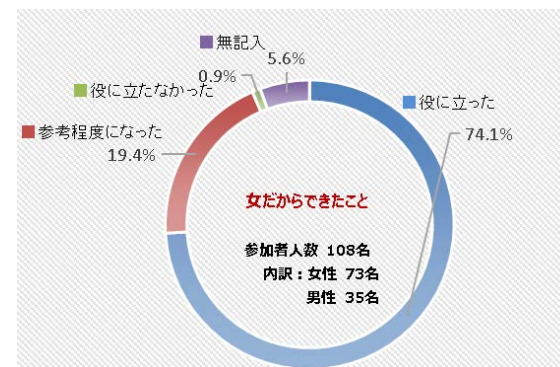
■ 講座概要「東北グランマの仕事づくり」

アバンティ社の経営理念は「オーガニック製品を通して地球環境の保全と社会貢献をする。」としている。2010年NHKのプロデューサーから言われた「社会起業家」のタイトルに後押しされ、東日本大震災発災後は、被害者にできることは何かと自問した。そして、まず宮城県の漁師町大指で被災した女性に仕事をつくろうと、社内にソーシャル事業部を立ち上げ、オーガニックコットンを活用した「東北グランマの仕事づくりプロジェクト」を開始。このプロジェクトでは、宮城県と岩手県の女性たちが手づくりしたクリスマス・オーナメントを販売した。講座では当時の映像を挿入し、グランマたちとの向かい合う様子を紹介した。

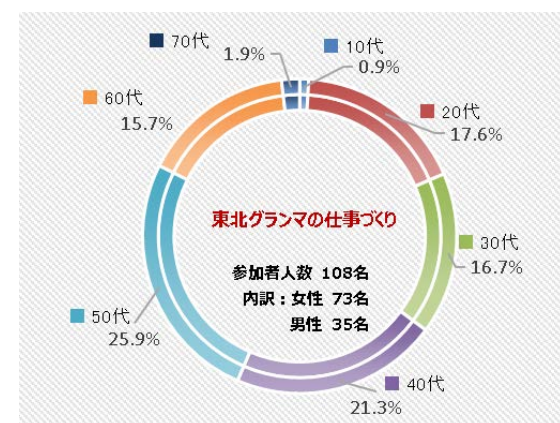
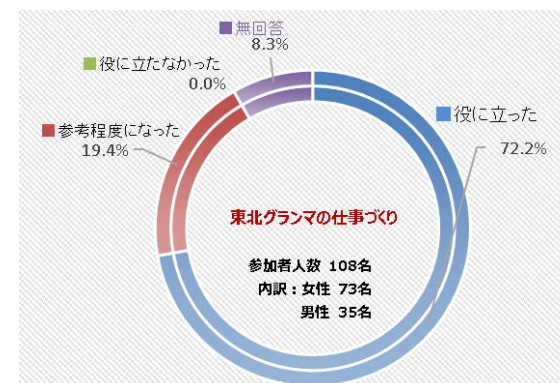
翌年には「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を立ち上げ、これらの仕事が継続できるよう、スポンサーを探し、ソチオリンピックに参加したアスリートに東北グランマが手編した帽子とスヌードのセットを500組提供した。現在も被災地3県のグランマたちに寄り添った取組を続けている。

受講者の方々からフィードバックをいただきました。

■ 講座「女だからできたこと」



■ 講座「東北グランマの仕事づくり」



■ 受講後の主なフィードバック

講座「女だからできたこと」

- Think Globally, Act Locally を女性目線で気づき事業化している現実を見せてもらった気がします。元気をもらえました。地域の課題を自分事として捉え、自分にできることを共感し合える仲間と共に、できるだけ行動していきたいと改めて思いました。
- 自分の状況を俯瞰する視点を持つことが「今」だけに囚われずに生きていけるのではないかということに気づかされた。
- 女だからできたことではあるが、その視点をたくさんの方々が知って、性別に関係なくできる社会ならいいと思った。女だからできたことだが男でもできたと思う。
- 自らの取組みに対する考え方や発信の仕方の根本に、女性であることの視点があることを気負わずに話されていた。男女間の平等を声高々に主張することを超える、もっと現実的・根本的に大事なことがあること、その視線を忘れない取組みそのものの力とそれを支援するネットワーク＝人とのつながりがあるだろうことを感じさせてくれた。

講座「東北グランマの仕事づくり」

- 講師の言葉にあった「仕事我希望であり喜びである。仕事を続けることが如何に大切か」に考えさせられた。大災害に遭遇し悲観しているとき、アバンティが仕事をするという方法で復興支援に取り組んできた。女性のパワーをうまく引き出せることができて、大変重要な取組だったと10年経とうとしている今、つくづく感じている。
- 講義を通じて、事業や仕事を継続させるためにはどうするべきか、それが仕事を失った人や復興にどう貢献できるかという、今まで自分自身に考えが全くなかったことに気づき、考えさせられた。常にアンテナをはり、何ができるのか、どうやったらできるか、どう関心を集めるのか、どう協力してもらうか、どう探って見つけて実践していくかという気持ちが必要だと感じた。
- 課題（被災された方々の悲しい気持ち）に対し、きちんと皆さんの声を聞いて解決提案（得意なことを活かした仕事）を行うことで被災された方々の課題解決（生きがいづくり）につながっていた。